

コープリハビリテーション病院・老健あかねだより

No.33 2016年 5月号

倉敷医療生活協同組合
コープリハビリテーション病院
〒712-8024 倉敷市水島北春日町4番3号
TEL 086-444-3212

老人保健施設 老健あかね
TEL 086-446-6541

コープリハビリテーション病院は、川崎医科大学附属病院と倉敷中央病院との連携病院です。

コープリハビリテーション病院に期待する

水島南診療所 所長 前 律夫 (元病院長・理事長)

新しい街ができる 新しい歴史をつくる
伝統を引き継ぎ、新しい歴史をつくる



古い協同病院を修繕しては継ぎ足したボロの病院で、利用者も職員も苦労して大きな実績をあげました。わたしは今、新しいコープリハビリテーション病院(旧・健寿協同病院)を毎日見ながら出勤しています。

健寿協同病院ができて29年、いろんなことがありました。認知症患者さんの「徘徊」には職員はキリキリ舞いをさせられました。その度に「職員全員集合」をかけ、行方不明になった人を探しました。余り時間が経っていないと思われ、呼松の水門のところで見つかったり、お墓に行っていた人もありました。

ある時は女性の利用者の方がいなくなると大探し。ある人が窓の外をみると、三階の屋根から女性の足が片方見えて、ぶらぶら揺れている。屈強な男子職員が階上に駆け上がって今にも転落しそうな患者にそっと近づいてさっと手を掴んで助けたこともありました。

さて、建物は古くてボロボロだったが、中は他所にはない暖か味がありましたね。今、わたしは新病院の建つ様子を毎日見ながら出勤しています。ああ、新しい街ができると思うと夢のようです。

建設の状況 鉄骨が組み上がりました



倉敷医療生活協の病院は春日町中心から、千鳥町のコープリハビリテーション病院を中心として水島南診療所やケアハウスちどり、特養もちどり、訪問介護ステーションなど南北二極体制になりますね。これらの事業所が互いに競合的になるのではなく、お互いの事業所が相手の苦労を知り、どう相手に貢献する集団になるかが大切だと思います。それが、新しい病院をつくる一つの大きな意味だと思います。



私 が理学療法士として倉敷医療生活協に入職して、早いもので8年が経過しました。

初めの2年間は、水島協同病院で急性期の患者様に対して、全身状態やリスク管理に気を配りながら、少しでも身体機能の向上を図れるように、リハビリを実施していました。

次の3年間はコープリハビリテーション病院(旧・健寿協同病院)の回復期病棟にて、患者様・御家族が安心して退院できるよう、身体機能の改善のみではなく、多職種と情報を共有して、生活全体に目を向けたリハビリ介入を心がけてきました。

そして、3年前より短時間の通所リハビリの担当となり、維持期のリハビリを実施しています。利用者10名で開始した通所リハビリも、現在では50名以上の方々に利用して頂いています。維持期のリハビリでは、急性期や回復期の患者様と違い、明らかな身体機能の向上が見られる方は少ないですが、身体機能、生活機能の低下防止を図りながら仮に自立している動作でも「困っている動作はな

満足して頂けるリハビリ介入を目指して

「安全で楽にできる方法はないのか？」など、利用者の生活全体に目を向けたリハビリ介入を心がけています。利用者のみではなく、御家族、ケアマネージャーなどからも「あそここのリハビリにしたい」「あそこなら安心して利用してもらえ。」と言っていたような職場作りをしていきたいと思っています。

短時間通所リハビリ 理学療法士 岡野 泰樹



筋力強化を実践している様子



ボランティア活動の歴史に確信をもった総会

ボランティア活動の歴史に確信をもった総会

さざんか入浴ボランティア 渡辺あさ子

3月11日、生協会館にてコープリハビリテーション病院・老健あかねの「ボランティア総会」が55人の参加のもと、開かれました。今回は、司会や受付、お茶配りなどボランティアが担当し、職員と一緒に進行に努めました。はじめに、院所からの謝辞や一年間の振り返りなど映像も使った報告があり、今年度のボランティアの延べ参加人数は1,311人のほり、7年前の2008年度と比較すると3倍近く増加していることがわかりました。その後、NPO活動支援センターの三宅啓太さんから、「ボランティア活動を更に楽しみたい、今後の活動に活かせる豆知識」というタイトルでの講演があり、『活動先の変化が地域社会の変化をもたらし、自分たちのまちを自分たち自身でつくること』など、深みのあるテーマでお話されたことが印象的でした。



実習の学生と水島南診療所での懇談 (筆者右)



ボランティア総会での講演の様子

入院や入所に際して、部屋代はいただいていません。